

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

- ◆新会長就任挨拶（岩堀英晶）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆会長退任挨拶（水久保隆之）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◆事務局から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 2015－2016 年度会長選挙および評議員選挙の結果
 - 2015－2016 年度学会運営体制
 - 学会事務局の移転
 - 学会誌編集事務局移転のお知らせと投稿募集
- ◆2015 年度日本線虫学会大会（第 23 回大会）のご案内（大会事務局）・・・・・・ 5
- ◆記事
 - 第 10 回九州線虫懇談会参加報告（吉田睦浩）・・・・・・・・・・ 8
 - 日韓線虫学合同シンポジウム（第2回）の
 - 参加者アンケートの集計結果（岡田浩明）・・・・・・ 9
 - 九州沖縄農研における研修（大澤貴紀）・・・・・・・・・・ 11
 - 九州沖縄農研における研修（大桃沙織）・・・・・・・・・・ 13

新会長就任挨拶

岩堀英晶（龍谷大）

歴代の会長である、石橋信義先生、真宮靖治先生、近藤栄造先生、二井一禎先生、皆川望先生、三輪錠司先生、水久保隆之先生は、みなそれぞれの専門とされる分野でひとかどの仕事を成し遂げた、いわばその道の大家です。その歴史の中で、私のような中途半端な者が会長など務まるのだろうか。このたび会長という大役を任されることになり、非常に戸惑いました。と言いますのも、二井会長の 2 期目（2005 年度）より 10 年間にわたり、ニュース編集委員

そして事務局長と、歴代会長と密に連絡を取り合う裏方の役職に就いた経験から、会長職の重責を常々感じていたからです。まさかその立場に、まだ大した仕事も成し遂げていない今の自分になろうとは思っていませんでした。

しかしながら、少々落ち着いたところで考えてみますと、何とかなるのでは、という思いも少しずつ出てきました。これは私の傲りではありません。これから 2 年間、会長を支えてくれるであろう事務局、評議員、編集委員ほか、学会体制の維持に携わってくださる多くの方々への信頼感からく

るものです。各委員のメンバーにつきましては事務局からお知らせがあると思いますが、まさに盤石の体制と思っています。極端なことを言えば、会長が誰であろうと、日本線虫学会の発展的存続を全く心配する必要はないのではないかとさえ思えます。

さて、最近の線虫学会の大会で感じることは、若手が元気ということです。長谷川先生（中部大学）が組織している線虫学会若手の会「J4s」が積極的に大会で企画集会を行い、盛んに若手の力をアピールしている姿は、とても頼もしさを感じさせてくれますし、博士号を持つ優秀な人材がこれからどんどん増えてゆくことが予想されます。しかし一方で、線虫を生業とする彼らの就職先がなかなか見つからないという古くからの問題があります。線虫学会を通じて、彼らがのびのびと才能を生かせる場が少しでも見つかるようにしていきたいと思っています。そのための一つの手段として、これから議論が必要ですが、奨励賞のような、優秀な若手の就職をサポートするようなものが不可欠ではないかと思っています。

ところで、私事ではありますが、私は16年間勤めた農研機構・九州沖縄農業研究センターを3月で退職し、この4月より滋賀県大津市瀬田にある龍谷大学に勤務することになりました。前職場での16年間は非常に充実したもので、多くの人、仕事、そして線虫と出会うことができました。近年は研究そっちのけで線虫学の普及活動に取り組み、東海大学、九州大学、琉球大学での講義、また、九州沖縄各県職員や、全国の農業普及・植物防除職員を対象とした北農研での有害線虫講義や実習を行ってきました。また、今号の記事にありますように、研修生の受入れを積極的に行いました。さらには、佐賀大学・吉賀先生とともに九

州線虫懇談会を主催し、熊本大学・澤研究室の皆さんを始めとする線虫学同好の士の交流に努めてきました。しかしそろそろ後進に道を譲りたいと思っていましたところ、折よく公募のあった龍谷大学に運よく採用していただけることになりました。

龍谷大学は関西の中堅大学で、文系の大学としての知名度はありましたが、理系の大学としてはあまり知られていませんでした。本年度から国内では35年ぶりとなる農学部を新設したばかりです。「今年は第1期生の1年生しかいないので、会長職を遂行するのに問題はなかろう。」と高を括っていたのですが、次々と増える学内雑用事務に振り回され、すでに手一杯の状態となってしまっています。メールの返事も滞りがちになり、新事務局・役員各位には申し訳なく思っています。

これから2年間の任期中、自分に何ができるのか色々思い悩みながら、学会の発展のために努力していきたいと思っています。小さな学会ならではの利点を生かし、会員間の密な関係と情報交換、そして若手がいきいき活躍できる場を作っていきたいと考えています。皆様のご協力よろしくお願いたします。

会長退任挨拶

水久保隆之（中央農研）

この度、2期4年間の会長任期を全うし、退任することとなりました。会員の皆様には2期のご支持方有難うございました。

会長選出時の挨拶にも書きましたが、日本線虫学会の会長の選出通知を北海道農研の学会事務局から頂戴した日が4年前

（2011年）の3月11日で、まさに東日本大震災の当日。あれから4年経ったのですが、私の意識の中では地震と原発事故に伴

う心身喪失のような無力感からの緩慢な回復と線虫学会に対する使命感の発揚とが、まさに平行して進んだ4年間だったように感じます。

この間、学会の創立20周年にあたり、これを記念する事業の展開を図りました。それらは20周年からは多少おくれて成就することになりましたが、ひとつは線虫学実験の刊行でした。もう一つが全国線虫防除アンケートに基づく線虫発生と防除実態の報告です。後者は任期中に発表することができませんでしたが、前年度末の3月に *Nematological Research* 誌に投稿していますので、今年度中にはお目にかけることができるかと思えます。

日韓の線虫学合同シンポジウムは、今度会長に選出された岩堀さんの韓国との共同研究が発展したもので、まったく岩堀さんの功績といえますが、たまたま私の任期中にあたって、会長として韓国チェジュ島に渡って合同シンポジウムで挨拶や講演を行い、この答礼も兼ねて先年日本のつくば市で第2回の合同シンポジウムを主催しました。光栄に思いました。人生において線虫学会が自分のアイデンティティだった期間を持てたことを幸せに思いますし、この経験をこれからも大切にしたいと思います。これらの事業において、会員の皆さんの底力に触れ、線虫学会はこれからも大丈夫だと確信いたしました。

当面の線虫学会は、岩堀会長の下、更なる発展を遂げることと思います。今後は評議員として、編集委員として、残り少ない期間かとは思いますが、幾ばくなりとも学会に貢献していきたいと思えます。簡単ですが、以上をもって退任の挨拶と致します。

[事務局から]

2015-2016 年度会長選挙および評議員選挙の結果

正会員の投票による標記の選挙が、2015年3月2日を締め切りとして実施され、同年3月3日に事務局（農研機構 九州研）において、選挙管理委員の佐野善一氏および鈴木崇之氏による開票および結果の整理が行われ、下記のとおり、2015-2016年度の新会長および新評議員が選出されました。

【会長選挙】

選出 岩堀 英晶（龍谷大学）

次点 奈良部 孝（農研機構 北農研）

【評議員選挙】

選出 荒城 雅昭（農環研）

神崎 菜摘（森林総研）

小坂 肇（森林総研 九州支所）

串田 篤彦（農研機構 北農研）

水久保 隆之（農研機構 中央研）

奈良部 孝（農研機構 北農研）

岡田 浩明（農環研）

竹内 祐子（京都大学）

植原 健人（農研機構 中央研）

吉賀 豊司（佐賀大学）

[以上、アルファベット順]

次点 二井 一禎（京都大学）

2015-2016 年度学会運営体制

評議員会の承認を得て、2015-2016年度は下記の体制で本学会を運営することになりました。なお、会計監査は現時点の候補者であり、9月に開催予定の総会に提案し、承認が得られた後に決定となります。

事務局長
立石 靖 (農研機構 中央研)

会計幹事
秋庭 満輝 (森林総研)

庶務幹事
植原 健人 (農研機構 中央研)

編集幹事
相場 聡 (農研機構 北農研)
相川 拓也 (森林総研 東北支所)
伊藤 賢治 (農研機構 北農研)
関本 茂行 (農研機構 中央研)

会計監査候補者
高木 素紀 (茨城農総セ)
浦上 敦子 (農研機構 野茶研)

選挙管理委員
百田 洋二
田辺 博司 (エス・ディー・エス
バイオテック)

編集委員長
荒城 雅昭 (農環研)

編集委員
相川 拓也 (森林総研 東北支所)
荒城 雅昭 (農環研)
二井 一禎 (京都大学)
Gaspard, J. T. (ネマテンケン)
Giblin-Davis, R. M. (フロリダ大学)
神崎 菜摘 (森林総研)
小坂 肇 (森林総研 九州支所)
串田 篤彦 (農研機構 北農研)
水久保 隆之 (農研機構 中央研)
三輪 錠司 (中部大学
研究推進機構)
奈良部 孝 (農研機構 北農研)
Oka, Yuji (イスラエル農業省 Gilat

Research Center)

岡田 浩明 (農環研)
竹内 祐子 (京都大学)
吉賀 豊司 (佐賀大学)

[以上、アルファベット順]

学会ニュース編集小委員会委員
岡田 浩明 (農環研)
前原 紀敏 (森林総研 東北支所)

学会事務局の移転

評議員会の承認を得て学会事務局は今般、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 中央農業総合研究センターに移転しました。

お問い合わせ先 :

【庶務】

〒305-8666 茨城県つくば市観音台 3-1-1
農研機構・中央農業総合研究センター
病虫害研究領域内
TEL : 029-838-8839 (直通)
FAX : 029-838-8837

【会計】

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1
森林総合研究所 森林微生物研究領域
森林病理研究室内
TEL : 029-829-8246 (直通)
FAX : 029-874-3720 (代表)

【電子メール (庶務・会計共通)】

shomu*senchug.org

会費等納入先 :

【ゆうちょ銀行 振替口座】

日本線虫学会 00170-6-610102

【銀行口座】

常陽銀行 谷田部支店 (店番 040)
口座番号 1697209 (普通)

日本線虫学会 代表 立石靖
(ニホンセンチュウガツカイ
ダイヒョウ タテイシヤスシ)

学会誌編集事務局移転のお知らせと投稿募集

編集委員長の交代により、学会誌編集事務局は下記に移転しました。

日本線虫学会誌 (Nematological Research) は、J-Stage (科学技術情報発信・流通総合システム) を通じて公開されています。また本誌に掲載された論文は、CAB-Abstracts に抄録されます。会員のみなさまにおかれてまは、研究成果を日本線虫学会誌 (Nematological Research) に投稿されれば、本誌掲載の研究成果は国内および世界に発信されますので、ぜひとも本誌を上手にご活用下さい。

詳細は日本線虫学会誌 (Nematological Research) 巻末掲載の投稿規程などをご覧になり、それらに従って原稿を執筆していただきたいと存じますが、線虫に関係がある限り、原著論文・短報・研究資料の原稿、和文・英文を問いません。いつでもお待ちしておりますのでよろしく投稿のほどお願いします。

投稿先：荒城雅昭 arachis*affrc.go.jp
〒305-8604 茨城県つくば市観音台 3-1-3
国立研究開発法人 農業環境技術研究所
生物生態機能研究領域
TEL：029-838-8269
FAX：029-838-8199

2015 年度日本線虫学会大会 (第 23 回大会) のご案内

大会事務局

1. 中部大学大会の趣旨

線虫は地球上のあらゆる環境に適応し進化を遂げた、非常に多様性のある魅力的な生物である。農林水産業および医療現場において駆除すべき病原性を有するもの、化学農薬に替わる新しい生物農薬としての可能性を秘めたもの、環境の健全性を表す指標として有用なもの、さらにイノベーティブな基礎生物学的大発見ができる実験生物として世界中で使用されているものなど、様々な場面において我々人間と大きく関わりを持った生物である。

本大会は「線虫」を研究対象とした基礎から応用に跨がる幅広い研究者が集まり、毎年研究成果を発表し討論する場である。参加するメンバーは、農・理・薬・医・工といった非常に幅広い学部・領域に所属する大学教員・学生であったり、農業研究機関や農薬会社の研究員であったり、または防疫官であったりと、実に多様で生物学を網羅するといっても過言ではないため、毎回活発な議論が繰り広げられ、異分野の視点からいつも新鮮な発見や共同研究が生まれるクリエイティブな会である。

今回、日本線虫学会大会としては東海地域初の開催となる。東海地域の生物科学研究及び教育を支える中部大学で開催する使命およびその意義として、線虫学をとおして地域産業の活性化を図ること、そして日本の生物科学の教育・研究進展に貢献することであり、以下に本大会の特徴を挙げる。

1) 学生の大会参加費を無料にして招待する。

大幸財団からの資金援助のもと、本来徴収する学生参加費を無料とし、学生参加者、学生発表者を広く募る。線虫学会会員にとって、線虫学の魅力を学生に伝える絶好のチャンスであり、分野の発展と次世代の育成という使命を果たす機会にもなる。

2) 線虫学会の会員でない研究者、あるいは農家にも広く案内して参加を促す。

非会員の方も会員同様の参加費で参加できるようにする。

3) 異分野の第一線で活躍する若手研究者

を招き、公開シンポジウム演者として発表して頂く。

異なる分野の話を書くことこそ、既存の枠にとらわれない、今まで思いもしなかった新しい発想が生まれるきっかけとなる。本大会のシンポジウムでは、これまで線虫を扱ったことがないまたはほとんどない方を線虫学会にお招きしてお話し頂く予定である。

2. 開催日程（参加発表者の人数によって時間等が変更する場合があります）

2015年9月2日（水）～4日（金）

◇9月2日（水）

9:00～12:00：評議員・編集委員会

13:00～16:00：一般公演

16:00～17:00：総会

18:00～20:00：懇親会

◇9月3日（木）

10:00～12:00：一般公演

13:30～16:00：線虫学公開シンポジウム

16:00～17:00：ポスターセッション等

18:00～：夜のグレーター・ナゴヤ（自由行動）

◇9月4日（金）

10:00～：一般公演

3. 大会会場

中部大学三浦記念会館（名古屋キャンパス）

〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田 5-14-22

JR 中央本線「鶴舞」駅名大病院口（北口）下車すぐ（ダッシュしたら30秒）

地下鉄「鶴舞」駅下車北へ約100m

<http://www3.chubu.ac.jp/organization/facilities/nagoya/>

4. 懇親会会場

名古屋ビール園「浩養園」

〒464-0858 愛知県名古屋市中区千種区千種 2-24-10

中部大学三浦記念会館から歩いて10分ほど

TEL：052-741-0211

<http://www.kouyouen.jp/>

5. 大会事務局

中部大学応用生物学部環境生物科学科

長谷川研究室

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

TEL：0568-51-9864

FAX：0568-52-6594

E-mail：hasegawaelegans*hotmail.com

大会実行委員

長谷川浩一（代表）：中部大学

津田格：森林文化アカデミー

新屋良治：Caltech USA/中部大学

6. 参加申し込み方法

本大会では公益財団法人大幸財団からの援助を受け、事前申し込みの場合学生の参加費が無料になります。下記に従い、奮ってお申し込みください。

1) 学生参加申し込み方法

7月23日（木）までに本大会への申し込みをされた学生（学部学生、院生、研究生）の参加費が無料となりました。本大会に参加される学生は、①氏名、②所属する研究室及び学年、③指導教員の名前、④発表の有無および発表様式（口頭・ポスター）、⑤懇親会参加の有無、を明記し、7月23日（木）までに大会事務局（hasegawaelegans*hotmail.com）までメールで申し込み（注意：同時に指導教員へもccにて送ること）をおこなってください。また、懇親会に参加をされる学生は、7月23日（木）までに、下記の金額を郵便振替にてご送金ください。その際、通信欄に指導教員のサインをもらうようにしてください。7月24日以降に参加を希望される方は、当日受けにて承ります。

2) 一般参加申し込み方法

参加を希望される一般の方は、7月23日（木）までに、郵便振替にて大会参加費・懇親会費を下記口座へご送金ください。

ご送金は複数人数をまとめずに、一人ずつおこなうようにしてください。7月24日以降に参加を希望される方は、当日受付にて承ります。

3) 大会・懇親会参加費

大会参加費 一般 3,000円

学生 無料

(当日申し込みは一律3,000円)

懇親会費 一般 6,000円

学生 1,000円

(当日申し込みは一律7,000円)

口座名：日本線虫学会第23回大会事務局

口座番号：00890-4-184358

4) 発表申し込み

本大会にて「口頭発表」もしくは「ポスター発表」を希望される方は、大会参加申込時の振替用紙にある通信欄に発表希望様式を記入し、7月23日(木)までに参加申し込みとともに講演要旨の提出をおこなってください。要旨は以下の形式に従って作成して頂き、希望発表様式をメール本文中にご申告頂き、大会事務局講演要旨受付担当者(津田格、kaku*forest.ac.jp)へメールにてお送りください。学生が要旨提出をされる場合は、同時に指導教員へもccにて送ること。発表者はひとり1題のみですが、共同発表者としての参加は何題でも構いません。また、口頭発表の内容をポスターでも掲載し皆さんとディスカッションをされたい方は、口頭発表と同タイトル同内容に限ってポスター発表も同時に認めますので、要旨提出時にその旨をお伝えください。口頭及びポスター発表者は日本線虫学会会員である必要があります。

5) 大会事務局講演要旨受付担当者

〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88番地

岐阜県立森林文化アカデミー 津田格

TEL：0575-35-3888

E-mail：kaku*forest.ac.jp

電子メールで受信した講演要旨については、受信後1週間以内に、受付確認メールを事務局から送信します。1週間を過ぎても確認メールが届かない場合は、大会事務局講演要旨受付担当までお知らせください。

7. 講演要旨の作成(巻末に要旨見本：

Wordファイル)

講演要旨は用紙サイズB5判横置きで、上下左右の余白を2.5cmとして作成して下さい。1行は全角45字、本文13行、全体16行(タイトル行3行のとき)か17行(同4行以上)以内として下さい。1行目に演者名を記し(発表者の前に○印、複数の場合は・で区切る)、続けて括弧()内に所属の略称(所属が異なる場合は、上付数字を付けて区別する)、1字空けて演題、1字空けて上記事項の英文表記(氏名はMomozono, K.のように、所属はTosei Univ.のように省略して記す)を記載して下さい。その後1文字空けて、責任著者のメールアドレス(学生の場合は指導教員)を付記して下さい。その際、迷惑メールを避けるため、@の代わりに*を使用して下さい。日本語は明朝系フォント(MS明朝など)、英文表記はCenturyまたはTimes New Romanなどのフォント(12ポイントを推奨)を使用し、タイトル行は太字にしてください。本文は行を改めて次の行から始めて下さい。本文中の英数記号は半角を使用して下さい。

電子メールの添付ファイルで提出される場合、ソフトウェアは「MSワード」または「一太郎」を使用して下さい。本ニュース巻末に見本を掲載しております。

講演予稿集は大会当日に会場で配布します。このほかに、講演要旨(修正可能)は

日本線虫学会誌第 45 巻第 2 号に掲載されます。

8. 講演発表

口頭発表の講演時間は、討論時間を含めて 1 題 15 分を予定しています。口頭発表は PC プロジェクターのみ使用できます。PC プロジェクターの利用環境は Windows 7、対応ソフトは Microsoft Power Point 2013 を予定しています。これ以外の環境でスライドを作成される場合は、あらかじめ動作確認をお願いします。講演ファイルは USB メモリにて受付をおこないますので、講演者はできるだけ早く受付まで持ってくるようにしてください。

ポスター発表の場合は、900×1,800 mm のボードに収まるようにしてください（ちなみに A0 サイズは、841×1,189 mm です）。なお、ポスターを貼り付ける道具は大会事務局で用意します。

9. 会場およびその近辺情報（巻末に案内図）

会場の最寄り駅は JR 中央本線「鶴舞」駅、または名古屋市営地下鉄鶴舞線「鶴

舞」駅です。金山、栄、名古屋へは、鶴舞駅で電車に乗り込んだのち 10 分以内でアクセスできます。宿泊は各自ご手配をお願いいたします。

名古屋観光情報

<http://www.nagoya-info.jp/>

【記 事】

第 10 回九州線虫懇談会参加報告

吉田睦浩（九州沖縄農研）

3 月 14 日に九州沖縄農研の研究交流センターで九州線虫懇談会が開催されました。岩堀さんと吉賀さんが毎年企画している懇談会も 10 回目となりました。今回は、岩堀さんが農研機構を退職するということを内々に聞いていましたので、例年 3 月下旬か 4 月上旬の懇談会はないだろうと思っていましたが、不意を突かれて（？）、普段より早めの開催となりました。10 回目とあって岩堀さんの意気込みで開催された懇談会でした。参加者数は昨年よりは少なめでしたが、講演は平年並みに揃い、懇親会と合わせて盛会でした。九州線虫懇談会は、いつも九州沖縄農研の桜並木の花見とセット（？）で開催されていたようですが、さ



第 10 回懇談会のオープニング、司会の岩堀さんと演者の田淵さん（左端）

すがに今年は桜なしの開催となりました。

講演は九州沖縄農研都城拠点の田淵さんによる「ハイスターチのサツマイモネコブセンチュウ SP1・SP2 抵抗性遺伝子保持品種選抜用 DNA マーカーの開発と適用」、熊大理学部澤研究室の中上さんによる「線虫感染過程における CLAVATA シグナル伝達系の関与」、同太田さんによる「サツマイモネコブセンチュウに対する誘引物質の探索」、同平野さんによる「ムシレージが関与するサツマイモネコブセンチュウの誘因」、佐賀大農学部吉賀研究室の小野さんによる「非寄生性線虫に対する昆虫の生体防御反応」、最後に九州沖縄農研の岩堀さんによる「ラオス北部におけるナス遺伝資源と線虫探索+ α 」の計6題の講演がありました。本来なら、岩堀さんの送別会となるべきでしたが、懇談会の開催が3月中旬で、人事関係から、岩堀さんの龍谷大への転出は公表できない状況で、岩堀さんの講演の“+ α ”でオフレコのサプライズ講演となりました。

参加者は佐賀大(+OB) 3名、熊本大5名、森林総研1名、熊本県(民間)1名、九州沖農研(+OB) 5名の計15名でした。今回も佐賀大 OB の近藤先生、九州沖縄農研 OB の佐野さんの参加があり、熊大、佐賀大の若手の学生さんから大御所まで、全員懇親会までの参加でした。熊大の学生さんたちの線虫を気軽に語り合うことができ、発表できる会合を続けてほしいという要望もあり、吉賀さんによる九州線虫懇談会の継続表明、そして岩堀さんの新任地での中央日本(?)線虫懇談会の発起表明で懇談会の幕を閉じました。ちなみに吉賀さんとともに吉田も岩堀さんの後を受けて、懇談会の幹事を引き受けることとなりました。次回も皆様の参加お待ちしております。

日韓線虫学合同シンポジウム(第2回)の参加者アンケートの集計結果

岡田浩明(農環研)

昨年9月に開催した日韓線虫学合同シンポジウム(第2回)の参加者の方々からいただいたアンケートの回答を集計しましたのでご報告します。今後国際学会やシンポジウムを開催するときの資料として活用していただければよいと思います。アナウンスの開始を早めにしてほしかったなどとの意見がありますが、全体としては満足できるシンポジウムだったとの回答が多く、主催者の一人としては満足しています。なお、各設問の点数は、1-5点で採点した平均点で、日本人は13-15名、韓国人は7-8名の方に回答していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。設問ごとに記したコメントは、回答の中から私が主要だと思ったものを選びました。すべてのコメントは学会 HP のリンクからご覧いただけます。

◇日本人参加者

1. アナウンスメント

1) 冊子の内容: 3.8

2) 回覧の時期、やり方: 2.9

前年度中など早い時期にアナウンスしてほしかった(5件)。学会や IFNS の HP でアナウンスすべきだった(2件)。

2. 参加登録

1) μ 切などの日程: 4.0

2) 費用: 4.1

費用は妥当、安かった。 μ 切りが遅く、参加者には余裕が持てた。スタッフは苦労したと思う。

3. 会場

1) 講演会場の使い勝手: 3.9

2) 休憩コーナーの使い勝手: 3.8

無料の施設はよかったが、時間厳守が窮屈。予算にもよるが、休憩コーナーにコーヒーマシンやドーナツなどがあるともっとよかった。

4. プログラム

1) 口頭発表 A. 運営、進行：4.1

B. 演目、演者の選択：4.0

よかったとの声が多いが、テーマ設定をもっと絞るべき、司会進行や講演者の中に準備不足が見受けられたとの声も。

2) ポスター発表 A. 日程、時間：4.0

B. 会場、配置：3.9

会場は広くてよかったが、ポスターの数や見学者の数が少なかった。

5. 受付など事務局の作業：4.2

大きな問題はなく、よく作業できていたが、全員向けのアナウンスが不足気味、演目変更などスタッフ間の情報共有が不足気味であった。

6. 食事（事務局提供）

1) ウェルカムディナー：4.9

2) 他の夕食と昼食：4.5

食事の質、量は充実していた。子供の料理の対応に苦勞が見受けられた。

7. エクスカーション

1) 運営、進行：3.9

2) 内容、訪問先：3.6

見学先の選択には賛否両論だが、観光施設を増やすべきとの声がやや多い。家族向けなど。

8. 参加記念品：4.3

ギフトセットは豪華でよかった。

9. 要旨集

1) 内容：4.3

2) デザインや体裁：4.4

立派なものができた。

10. シンポ全体：3.9

準備不足や細かい問題点はあるが、限ら

れた人員の運営を考えると全体としては大成功。

◇韓国人参加者

1. アナウンスメント

1) 冊子の内容：5.0

2) 回覧の時期、やり方：5.0

中国の参加者もほしかった。

2. 参加登録

1) 〆切などの日程：4.9

2) 費用：4.9

3) ホテル予約手続き：4.8

アナウンスが遅く、予算が取れにくかった。

3. 会場：4.9

つくばはよいが、沖縄の方がもっとよかった(^.^)

（ロビー、ドリンクコーナーの快適性：4.5、使い勝手：4.8、お湯のポットが使いにくかったとの意見あり）

4. プログラム

1) 口頭発表 A. 構成：5.0

B. 演目・演者の選択：5.0

C. 司会進行：5.0

よかった。

2) ポスター発表 A. 日程、時間：4.6

B. 会場、配置：4.9

時間が短かった。

5. 受付など事務局の作業：4.9

（コメントなし）

6. 食事（事務局提供）

1) ウェルカムディナー：4.9

2) 他の夕食と昼食：4.9

ウェルカムディナーの会場は素晴らしかった。他の食事とレストランも大体よかった。

7. エクスカーション

1) 運営、進行：4.7

2) 内容、訪問先：4.7

(コメントなし)

8. 参加記念品：5.0

特にバッグがよかった。

9. 要旨集

1) 内容：4.9

2) デザインや体裁：4.9

(コメントなし)

10. シンポ全体：4.7

(コメントなし)

九州沖縄農研における研修

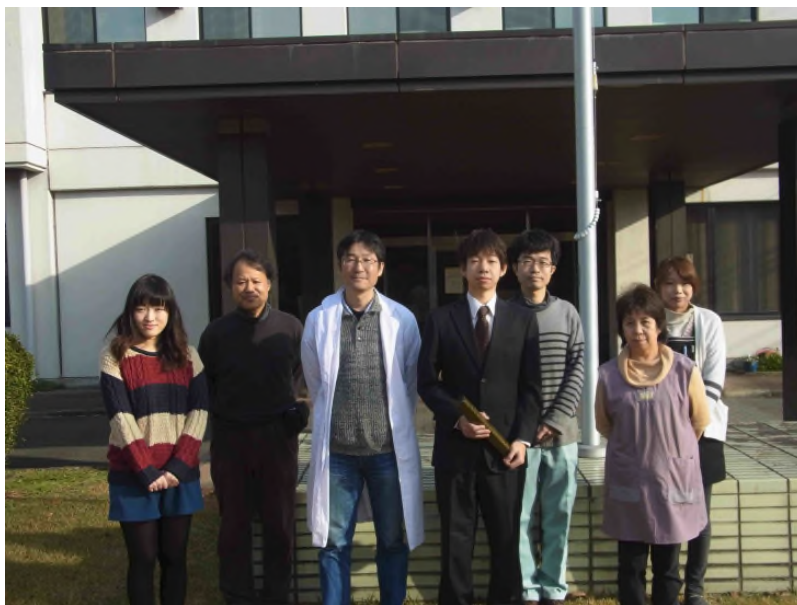
大澤貴紀（鳥取園試）

鳥取県園芸試験場（以下鳥取園試）の大澤貴紀と申します。この度、依頼研究員研修で九州沖縄農業研究センター（以下九州研）線虫研究グループの岩堀英晶上席研究員さん（現：龍谷大学）のもとでネコブセンチュウについての研究をさせていただきましたのでその体験記を書きます。

私は鳥取県内の野菜類に発生する害虫の

試験研究を行っています。現在、鳥取県で最も問題となっている害虫の1つがネコブセンチュウです。鳥取県といえば県東部の鳥取砂丘が有名ですが、県中部の北条砂丘では砂地を利用してナガイモを栽培しています。近年、鳥取園試が「ねばりっ娘」という在来種よりも粘りの強い新品種のナガイモを育成し、現場に広く普及しています。しかし、この「ねばりっ娘」の普及に伴ってネコブセンチュウによる被害が増加し、大きな問題となっています。この度、このナガイモのネコブセンチュウによる被害を解決したいという思いから、10月から12月までの3か月間、九州研にてネコブセンチュウの研究をさせていただきました。

九州研は熊本県熊本市の少し北側の合志市にあり、周りは山に囲まれた緑豊かな場所で鳥取園試と似た光景でした。研修期間中、私は九州研の敷地内にある寮で生活しましたが、寮は通勤時間が短く、夕食も作ってもらえたのでとても便利でした。しか



線虫研究グループ

し、寮で生活していたのがインターンシップで来ている大学生2人と私の3人だけということで、寂しい寮生活となってしまいました（逆に研究に没頭できたので良かったのですが）。また、自家用車を持って行けなかったのも、主に移動手段は自転車でした。土日には自転車でいろいろと散策しましたが、久しぶりの自転車生活と合志市の坂道の多さにより、へとへとになってしまいました。

九州研の線虫研究グループは岩堀さんの他に研究員として吉田睦浩さん、上杉謙太さんがいらっしゃり、同時期にインターンシップで来ていた大学生が1人というメンバーでした。初めは岩堀さんにいろいろと教えてもらいながらの研究スタートとなりました。岩堀さんは優しい方で試験方法などもとても丁寧に教えてくださいましたが、たまに冗談を言ったりもされ、ユーモアもある方だと思いました。例えば、熊本大学で線虫の研究をしている学生が九州研にサツマイモ掘りの手伝いで来ていた際に、体長2cm程のコメツキムシの幼虫が出てきて、岩堀さんが「ネコブセンチュウが成長するとこのぐらいの大きさになります」と説明されており、学生も真剣に「すごいですね！」と答えていました。大学生の素直さにも驚きましたが岩堀さんもお茶目な方だなと感じました。

実際の私の研究についてですが、10月はネコブセンチュウを増殖したり、トマトなどを播種したりと準備段階のため比較的余裕があったのですが、11月、12月と研修の終わりが近づくに従って徐々に忙しくなっていました。研修前に事前に岩堀さんと研修内容の打ち合わせをしたのですが、その時点でかなり詰め込んでしまっており、結局、12月は休みもなくて徹夜状態で研

究しているような状況でした。大学での研究生活を思い出しましたが、なんとか鳥取に帰る前に設計通りに研究を終わらせることができました。

研究内容については、ネコブセンチュウの移動能力試験が一番苦労しました。塩ビ管を用いて試験を行ったのですが、50cmの塩ビ管を1cm幅に切断し、ビニールテープで繋げるという作業が大変でした。その後、ベルマン法で線虫数を調査するのも大変でこの試験を行っている時期は手も腰も目も悲鳴を上げている状態でした。結果についてはおもしろいデータも出てきましたので線虫学会で発表させていただきたいと思っています。その他にもトマトやラッキョウを用いた線虫の接種試験を行いました。大変参考となる試験結果を得ることができ、充実した研修となりました。岩堀さんにはお忙しい中、ご指導いただき誠にありがとうございました。研修期間中に岩堀さんがラオスに出張されておられないという時期がありましたが吉田さん、上杉さんにもいろいろとご指導いただき問題なく研究を進めることができました。また、試験材料なども多く提供していただいたので大変助かりましたし、良い研究結果に繋ぐことができましたと思います。線虫研究グループの皆様には厚く御礼申し上げます。

依頼研究員研修では線虫のプロに直に教わりながら研究を進めることができたので大変参考になりましたし、貴重な体験ができたと感じています。ここで体験したことや学んだことを鳥取県で多くの人に伝えることができたらなと感じています。

今後も引き続き、線虫に関する研究を続けていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

九州沖縄農研における研修

大桃沙織（長岡技術科学大）

こんにちは！私は新潟県にある長岡技術科学大学の生物機能工学専攻修士1年の大桃沙織です。私は、九州沖縄農業研究センターの線虫害研究グループで2014年の10月から2015年の1月までの4か月間、線虫についての研修を行わせていただきました。私は、大学で糖鎖について研究している研究室に所属しており、線虫にかかわる研究は研修にきてから初めて行いました。そんな初心者の私がおこなった研修の内容や感想を紹介させていただきたいと思います。

まず、なぜこの研修に行くことになったのかというと、私の通っている大学では「実務訓練」という企業や研究機関などに行き実際に働くことを学ぶ長期インターンシップという科目があります。このインターンシップ先を研究室の先生に紹介してもらったことがきっかけで九州農研の線虫害研究グループで研修をさせていただきました。

研修では、はじめに植物寄生性線虫について岩堀英晶さんに授業をしていただき、また顕微鏡で線虫をみせていただきました。初めて線虫を顕微鏡で見たときは小さな透明な生き物がこんなに土の中にいるのかと驚きました。また、線虫にはたくさんの種類があり、顕微鏡で線虫を識別することができますと知りとても小さな違いを1匹ずつ観察するという細かい作業に驚きました。研修中は大まかに3つのテーマで実験をしました。1つ目は、ベルマン法の抽出効率をあげる方法を探すというテーマです。2つ目は、研究センター内にある桜の街路樹に寄生する植物寄生性線虫相を調査しました。これは実際に私たちが生活している近

くに線虫がいることを実感することができました。また、顕微鏡でネコブセンチュウとシストセンチュウとネグサレセンチュウを見分けることができるようになりました。3つ目は、環境指標生物としての線虫研究の面から、有機圃場と慣行圃場における線虫相の違いを比較しました。これは、各圃場から線虫を1匹ずつとりわけてPCRを行ったので初心者の中にはとても時間のかかる作業でした。線虫を取り扱う実験は1つ1つがとても細かく手先の器用さが必要だと感じました。また、実験を始める前に線虫を培養したり、線虫を取り扱う試験はとても時間がかかるということを知りスケジューリングの大切さを感じたり、指導をしてくださった岩堀さんだけでなく線虫害研究グループの吉田さんや上杉さん、鳥取から研修にこられていた大澤さんには私が扱ったテーマのことだけでなくほかの線虫のことや社会人のマナーも学べ、とても充実した研修になったと思います。今回、研修でいろいろと線虫についての知識や技術を伝授してくれた岩堀英晶さんには本当にお世話になりました。私の人生で線虫に関わることはないと思っていましたが思わぬ形で線虫とお会いすることができてたくさん学び得ることができました。ありがとう、センチュウ！！



研修の合間の記念写真

[編集後記]

◆労組活動でメーデーに参加しました。デモ行進で掲げるプラカードのコンクールがあり、「シーズ研究を育てる予算を確保!」、「スペース課金に絶対反対」などと研究環境の維持・改善を求める内容で3枚作成したら、2枚も入選しました!意気揚々と帰宅したところ、某大学の女性教授が夫婦で(!夫も教授)科研費を不正に受領していたとのニュースが流れてきました。同じような研究を夫婦で別々に申請し、奥さんの方は研究の実態がないのに研究費を受け取っていたとのこと。私は以前、企画部門で女性研究者支援事業を担当していました。関連シンポジウムの席で、女性研究者のロールモデルとして当時から引っ張りだこだったこの教授とも言葉を交わしました。その時いただいた、支援事業キャンペーングッズのコップを、ペン立てとして今も使っています。複雑な思いでそれを眺めています。

(岡田浩明)

◆例年、春の学会は森林学会に参加しているのですが、今年は16年ぶりに応動昆で発表しました。発表内容がマツノザイセンチュウではなく、*Bursaphelenchus okinawaensis* だったため、森林学会より応動昆の方がいいかな(まじかな)と思ったのですが、実際には1題だけ浮いてしまいました。結局、私にとってホームである森林学会の方がよかったかもしれません。でも、森林学会では会えない人に久しぶりに会えたり、普段は聴けないような講演を聴くことができたりと、たまにはアウェイの応動昆に参加してみるのも新鮮な気持ちになれて良いと感じました。線虫学会は、私にとって・・・。

(前原紀敏)

2015年5月25日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行

編集責任者 岡田 浩明

(ニュース編集小委員会)

国立研究開発法人 農業環境技術研

究所 生物生態機能研究領域

〒305-8604

茨城県つくば市観音台3-1-3

TEL: 029-838-8307

FAX: 029-838-8199

E-mail: hokada * affrc. go. jp

日本線虫学会ニュース第65号

ニュース編集小委員会

岡田 浩明 (農環研)

前原 紀敏 (森林総研東北)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター

〒305-8666

茨城県つくば市観音台 3-1-1

TEL: 029-838-8839 FAX: 029-838-8837

E-mail: shomu * senchug.org

URL: <http://senchug.org/>